



31 インド

国道5号線拡幅・改良事業(1)(2)

インド主要都市を結ぶ黄金の四角形
(基幹ルート)を整備することにより、
インドの社会・経済発展に貢献

| | |
|-----------|--|
| 承諾額 / 実行額 | 171億9,600万円 / 102億9,000万円 |
| 借款契約調印 | 1994年1月 / 1995年2月 |
| 借款契約条件 | 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド |
| 貸付完了 | 2003年6月 / 2005年1月 |
| 実施機関 | 国道庁 URL: http://www.nhai.org/ |



本事業の目的

アンドラ・プラデシュ(AP)州とオリッサ州の国道5号線一部区間において、既存の2車線道路を4車線化することにより、道路輸送能力を向上させ交通渋滞の改善をはかり、地域経済の発展・促進に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 a

本事業では、計画通り、第1期事業でAP州の、第2期事業ではオリッサ州の各区間で道路の拡張が行われた。2005年のAP州チラカルリペットービジャワダ間の一部区間の年平均日交通量は、1万8,520台/日であり、対計画比133%であった。2006年のオリッサ州ジャガトプールーチャンディコール間の年平均日交通量は、第1区間是对計画比104%、第3区間は同58%であった*。ただし、第3区間についてはデータ測定地点が計画時の測定地点と一致していないこともあり、地理的条件の差異を考慮すると、第2期事業の交通量についても一定の目標は達成されていると思われる。また、第1期事業対象のAP州グントゥール県では綿花などを生きた農産品加工産業が主要な地場産業であるが、同県の登録工場数をみると2003/4年から2005/6年にかけて2,035カ所から4,115カ所に急増している。また、第2期事業対象地の受益者調査では、一般家庭の100%が事業実施後に各種サービスへのアクセスが向上したと回答している。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

* 事業対象区間を3区間に分けて測定。ただし、第2区間は交通量調査を行っていない。



本事業にて
建設された道路
(チャンディコール)

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業は、審査時および事後評価時ともに国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。第1期および第2期事業の区間はいずれもインド国内の交通の要である黄金の四角形を構成する国道5号線の一部であり、本事業の優先度は引き続き高い。

事業実施の経済性(効率性) 評価 b

事業費については計画を下回ったものの(計画比73%)、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比170%)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業費減少のおもな理由は為替レートの変動によるものである。他方、事業遅延の要因は、実施機関の変更(運輸省(当時)→国道庁)、事業実施に必要な各種許認可取得の遅延等が挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価 a

本事業の運営・維持管理機関の能力、維持管理体制、および財務状況いずれも問題なく、高い持続性が見込まれる。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は非常に高いといえる。第2期事業において交通事故の減少効果が十分に発現していない区間もあることから、本事業の教訓として、特に人口の多い集落付近では、受益者たる地元住民・利用者の実態を考慮する地下通路(アンダーパス)などの横断施設の設置を、事業計画の一部として盛り込む必要があった。

開発途上国専門家の意見

国道5号線は、貧困地域と主要都市を結ぶ重要な幹線道路であり、本事業の妥当性は高い。地域住民や貿易関係者の移動手段の改善にも寄与し、地域全体の開発に貢献した。

専門家の氏名: Mr. K. Balachandra Kurup (NGO)
ソカディエ大学博士(社会科学)。現在は、ケララ州社会経済ユニット財団代表。専門は、マルチセクタープログラム管理、社会評価・分析、住民移転、政策分析等。